

エディトリアル

地域医療振興協会 へき地・離島画像支援センター 副センター長 伊藤大輔

へき地・離島画像支援センターは公益社団法人地域医療振興協会における、ネットワークを介した遠隔画像診断を行う部署である。

依頼された検査については、原則翌営業日までに読影を行い、依頼施設に返信している。主にCT、MRIの検査が多いが、消化管造影、胸部単純X線の健診やマンモグラフィ読影など、依頼施設の要望に対応した画像診断を行っている。

はじめは月30件に満たない依頼件数であったが、現在月4,000件を超える依頼に対応している。また、依頼がある場合には現地に赴いてIVR診療も行っている。センターの構成員としては、画像診断という立場で地域医療に貢献してきた自負がある。

この特集では、へき地・離島画像支援センターの開設経緯について、センターを開設した牧田幸三先生に記載していただいた。

伊藤は具体的にどのくらいの仕事量を行っているのかについて、データをもとに歴史を振り返ってみた。

また当センターの発展をシステム面で支えてくださったコニカミノルタジャパンの高野哲太郎氏にシステム面での体験について記載していただいた。

小坂哲也先生には遠隔地に赴いてIVRを施行した症例について、放射線科医の立場から記載していただいた。

そして実臨床においてどのように遠隔画像診断が有用であったかについて、受け手側の立場から、並木宏文先生、土屋典男先生、浅野雅嘉先生の各先生にそれぞれの施設の視点で記載していただいた。

本特集をみて、遠隔画像診断にご興味を持っていただいた施設があれば、ぜひ当センターまでご連絡いただけたらと考えている。